



ハワイ伝統文化継承者

Daniel Akaka Jr. (ダニエル・アカカ Jr. さん)

サウンドヒーリング協会設立20周年おめでとうございます。記念誌に寄稿させて頂くことを大変光栄に思います。20周年の年に世界が大きな困難を超えようとしていることは大切な意味があると思います。私の家系はハワイの精神文化を後世に継承する役割を担っています。その役割は今も同じです。ハワイは1959年に合衆国の州になりましたが、日本とハワイは繋がりが深く、自然観に多くの共通点があると感じています。それは、自然は征服するものではなく、つながりを深めて自然と共に生きる精神を大切にすることです。

世界に広がったコロナウイルスも抑え込む前に、今起きていることから私たちが学び、気づき、心の目を開く機会にして自分の精神性を高めるチャレンジを始める時だと思います。一人一人が目目の前の越えるべき山をしっかり見る必要があります。

今世界に起きている危機を超えるには、皆が互いを思いやり、一つに繋がることしかありません。皆が一つに繋がる方法は、一人一人が宗教宗派

を超え、祈りを深めることです。祈りは願望ではなく自分の心を高い神霊界に届け、その繋がりの意識で今を生きることです。私たちの縁ある神聖なる家族としっかりとつながる確かな方法が祈りです。祈りを通してのみ、人類が一つにつながり、危機を超えられると思います。

祈りとは音であり声であり、古代から続く祝詞の言葉です。声に出さなくても祈りは自分を包み、その響きが家庭や地域を包みます。音に愛の力を封じ込めた日本から発信するサウンドヒーリング協会の役割は今、世界にとっても大切だと思います。私もハワイから世界の安寧の為に日々祈りの心を発しています。MAHALO。

セロトニン Dojo 代表
東邦大学医学部名誉教授、医師

有田 秀穂

サウンドヒーリング協会設立20周年おめでとうございます。寄稿のために過去の資料を調べていたら、10年前に撮影された写真が出てきた。大学の脳科学研究室で撮られたもの。喜田理事長、中村泰治会長、西條一止先生、ニーニャ、そしてもう一人、佐藤郁子先生。彼女の父親(故佐藤昭夫博士)は、鍼灸や按摩をサイエンスで解明するパイオニアであった。当時私は、坐禅をサイエンスで解く研究をしていて、佐藤先生から多大の影響を受けていた。その坐禅研究で出会ったのが、セロトニン。誰でも脳内に分泌するセロトニンは、ハッピーホルモンとも呼ばれ、坐禅によってもたらされる心身の変化(特別な覚醒状態、平常心、自律神経のバランスなど)に関連していた。他方、セロトニンがストレスや引きこもりなどで分泌不全に陥ると、うつ病が発症するも臨床的に知られていた。当時ベストセラーになった拙著「脳からストレスを消す技術」はこの点を一般向けに解説したものの。ちょうどその頃に、喜田先生と出会い、今日までお付き合いを頂いている。例の音響振動療法を脳科学で調査研究をした。講演会では「ハッピーホルモン」について解説した。喜田氏が屋久島の自然音をヒーリングに活用するCDを出す際、医学コメントも記した。心地よい音が、聴覚のみならず触覚や振動覚を介して、人の脳に働きかけ、癒すことを、協会の人々は世間(日本のみならず世界)に発信し続けてきた。今後ますます発展されることを心よりお祈り申し上げます。



田園調布長田整形外科 院長

長田 夏哉

喜田理事長はじめセラピストの皆様との出会いは、田園調布長田整形外科開業(2002年)後、直ぐだったと思います。今では周波数医療はじめ、心身に対する音の効果について話題にすることも、よりオープンですが、20年前の日本は現在とはかなり異なりました。

協会の皆様が、地に足のついた活動を丁寧に継続され、変わらぬ教育・啓蒙を続けられていることに心から敬意を表します。18年前、私が医師として描く医療を表現するすべとして唯一のものがサウンドヒーリングでした。私自身、自分の信念が変わることなく医療に取り組むことができていたのも、サウンドヒーリング協会のお陰だと思っています。心から感謝しています。

気が付くと18年間、田園調布長田整形外科では常時止まることなく屋久島・宮古島の清流音が流れ、正に自然音で創られた空間があります。患者さんの中には、待合室で痛みなどの不快症状が緩和したり、気づきを得たりしていますし、私を含めスタッフが健やかに日々診療に従事できるのも自然音のお陰だと思っています。

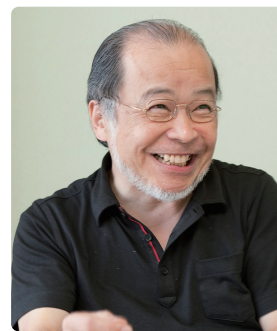
また、当院ではKITA式体感音響システムを提供しています。待合室・リハビリ室に常備し、いつでも誰でも体験出来るようにしてあります。さらに協会会員の杉山洋一氏による施術を院内で受けることができ、というのも当院の特色ともいえます。

全国各地での講演会やイベントでは、全国のセラピストさんたちが有志で心よく協力してください。生命の本質をしっかりと捉えている、セラピスト教育の素晴らしさには感銘を受けており、信頼しておまかせしています。私自身、共に活動させて頂くことでいつも学んでいます。

私たちの肉体は瞬間瞬間変わっていますし、医療も新しい治療法、検査機器、薬、手術、などなど変わっていきます。その中で何か変わらないもの、普遍的な本質、いのちの一貫性に通じるものを共有していることに感謝しています。

これからも、単に道具としての「音」についての探求にとどまらず、生命全体としての音、についてともに深め、学び、皆様と共に実践していきたいと思っています。

協会設立20周年まことに喜び申し上げます。



作曲・編曲家

神山 純一

サウンドヒーリング協会設立20周年とうかがい、本当にあっという間に20年がたったのだな、という感じがして驚いています。

喜田さんとはもう長い間お付き合いさせて頂いて、最初にお目にかかった時から「音を使って、その響きや振動」など「音・音楽の持っているあらゆる機能を心と身体を癒す力に出来ないか」と考えておいでという事が良く分かりました。

私は、作曲・編曲を生業にして来ましたが、私も音楽を作るようになって以来、ずっと「美しい音色と旋律は、人間の心と身体を深くから癒す」というところが「音楽の心と身体に良い効果がある」「音楽の一番大きな力」だと思って作品を作ってきた。「心地よい音」「心がほぐれ柔らかくなる音楽」は「安らいだ気持ちに」させてくれ、それを実感するという事は心と

身体に良い効果がないはずがありません。

「薬とは明らかに違って」身体に副作用を与える心配もなく、「科学」というか「合理性」というか理論の中で作られて行く「薬」とは明らかに違う、「人間の心と身体」というある意味、神秘的でデリケートな、時には科学の分析、理屈だけでは行きつけない「素晴らしく良い効果」を音楽や音から得ることが出来ると思っています。まさにそれが「音と音楽の素晴らしい力」です。

なかなか科学では分析しきれない、人間の「心」のようなところにまでダイレクトに働きかけることが出来るのかもしれませんが。

まだまだ「無限の可能性」を持った「サウンドヒーリング」。「協会」には更に多くの方々の「心と身体に良い効果」を与えて下さり、益々大きく社会に貢献され、発展してゆかれる事を願っています。